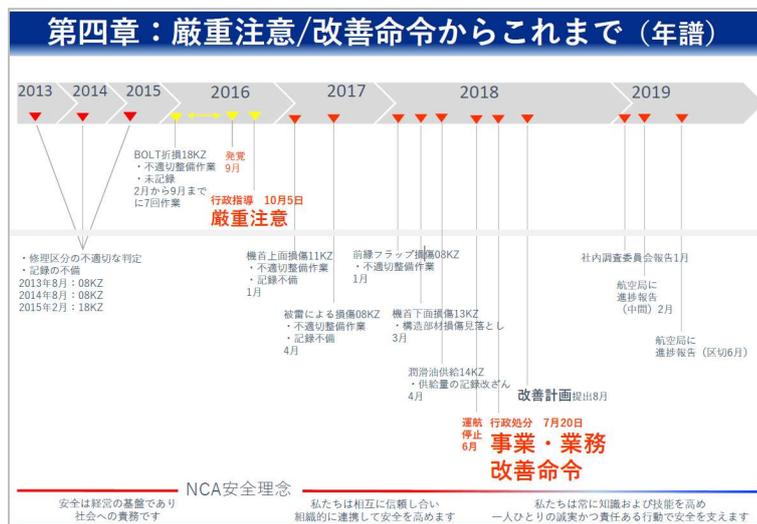


業 種	航空
取組分野	関係法令等の遵守の確保
テーマ	事業・業務改善命令に対する風化防止に係る取組
取組の狙い	事業・業務改善命令に係る継続的な再発防止・安全意識の向上
具体的内容	<p>1. 経緯・背景</p> <p>日本貨物航空株式会社（以下、「NCA」という。）は、当時、機材の種類とそれぞれの機数、運航便数に対して、必要な整備のための人員が不足した時期があり、生産規模と人員構成のバランスの崩れを主な背景・原因として、短期間のうちに以下 2 回の行政指導を受けた。</p> <p>① 2016（平成 28）年 10 月：整備規程に基づく整備を怠っていたとして、航空局より厳重注意の行政指導を受ける。</p> <p>② 2018（平成 30）年 7 月 20 日：整備規程に沿った整備を再度怠ると共に事象が業務規程にも抵触した事から、事業改善命令及び業務改善命令を受ける。</p> <p>このため、所有するすべての機材に対して、連続式耐空証明を単年式に NCA 自らの申し出により、変更するという異例の措置を受けることになった。これを受け、NCA は同年 8 月に自社にて改善策を纏めた報告書を航空局に提出。その後、2019 年 1 月に民間の有識者を加えた「調査委員会」の提言を纏めた報告書を航空局へ提出した。</p> <p>これら一連の事実を重く受け止め、NCA は、改善措置の一つとして位置付けられていた「再発の防止と社員の風化防止を図る」ことを目的として、不利益処分等を受けたことを忘れないためのメディアツールとして小冊子「事業・業務改善命令～あの時何があったのか、あれから 1 年、そしてこれから～」を作成することとなった。</p> <p>2. 風化防止のための取組について</p> <p>事業・業務改善命令に係る風化防止を図るため、小冊子を作成するとともに、冊子を活用した取組について、以下の①及び②を実施している。</p> <p>① 小冊子の作成</p> <p>2018 年に受けた事業・業務改善命令等について、運航の安全を確保する責任の重さ、安全を優先した行動の重要性を再確認するとともに、事象を知らない次世代への継承を目的として、小冊子を作成し、全役職員に配布している。なお、冊子の骨子としては以下のとおりである。</p> <p><冊子の骨子></p> <p>はじめに：安全推進室長のコメント</p> <p>第一章：2018 年 7 月 20 日の記憶</p> <p>第二章：事業改善命令による企業ダメージ</p> <p>第三章：起こした不安全事象の記憶と分析</p> <p>第四章：厳重注意／事業改善命令からこれまで（年譜）</p> <p>第五章：改善命令以降の取組み</p> <p>第六章：課題と今後に向けて</p>

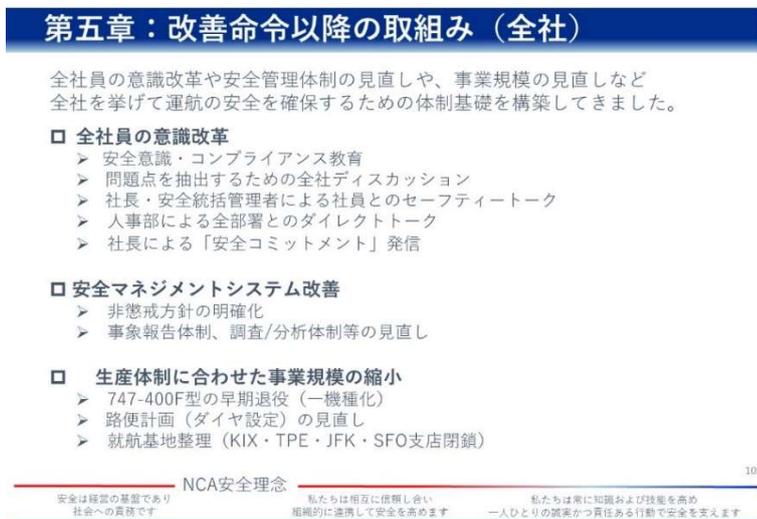
安全へのコミットメント：社長メッセージ
 おわりに：安全統括管理者のコメント
 <小冊子の表紙>



<小冊子の中身（その1）>



<小冊子の中身（その2）>



	<p>② 小冊子を活用した具体的な取組</p> <p>1) 安全統括管理者からの定期的なメッセージの発出 安全統括管理者から年始、年度初め、入社式などの節目に、改善命令に関する小冊子等に触れて「過去の出来事を振り返り、二度と同じ過ちを繰り返さないために、各自で誓った「安全コミットメント」を思い出して、決意を新たに「安全」への取組を推進して行って欲しい」という趣旨のメッセージを社員へ伝達している。</p> <p>2) 各部署での取組</p> <p>i. この小冊子を使用し、夏期安全総点検などの安全推進キャンペーン機会に各部署にて安全に関するディスカッションを実施している。</p> <p>ii. 基本安全教育リカレント教育資料に改善命令等について小冊子のエッセンスを取り込み、全社員が振り返りを実施している。</p> <p>3. 今後の予定</p> <p>初任教育での概要説明、各部署での振り返り等の風化防止の取組については、今後も継続的に実施していくこととしている。</p>
取組の効果	<p>1. 当時の社員に対しては、思い出するためのメディアツールとして、また、未経験の社員に対しては、知るためのツールとして小冊子が活用されていること。</p> <p>2. 定期的に安全の取組の一環として、教育、夏期安全総点検等を通して、学んだり、思い出す機会を作ることで、風化防止に繋がっていること。</p>
事業者名	<p>日本貨物航空株式会社 安全推進室 (連絡先：0476-32-9592)</p>